

20～30 歳代でコロナワクチン 3 回目接種を迷われている方へ

(2022 5/10)

若い方々の 3 回目接種率が 30%台と低迷しております。

当法人では厚生労働省等と同じ方針と考えます。

ワクチンは若い方の健康や命を守る

- ・ 高熱を出し咳が 2 週間続いても「軽症」に分類されます。
感染後 1 年が経過しても嗅覚や味覚、記憶障害などの後遺症に苦しんでいる人がいます。
- ・ 10 歳未満の重症例や 30 代の死亡例が報告されています。

高齢者や持病のある家族を守る

接種しないことで周囲の人を危険にさらしてしまうかもしれません。

変異ウイルスが誕生する確率を減らすことができる

感染者数が増えれば変異が起こるリスクは上がります。

副反応はあるが数日でおさまる

ほとんどの副反応は 2～3 日以内に回復しています。

心筋炎のリスクをふまえてもメリットが圧倒的に上回る

- ・接種後の心筋炎

男性で 12～39 歳の方に多い傾向です。

頻度は 100 万人あたり 12～32 人程度と稀です。

ほとんどが軽症で自然治癒しています。

- ・新型コロナウイルス感染後の心筋炎

ワクチン接種後よりも高い頻度と報告されています。

ワクチンのリスクと感染症のリスクを比べる

このウイルスは今後共存していく可能性が高いと考えられます。

いずれ感染してしまうかワクチンを接種するか。。

それぞれのリスクを比べて考えてみるとどうでしょうか？

若い方が接種する意義が見えてくるのではないかと思います。

ワクチンにより次の効果が期待できます

感染や発病した際の重症化予防
発症後の症状や後遺症を軽減
身近な高齢者や家族を守る

～厚生労働省 HP「若者のワクチン接種、メリットとデメリットの考え方」参照～

医療法人 KLC ファミリーランドクリニック南大高